

## 株式会社 DELTA i.D. 総合研究所

DELTA i.D. 総合研究所は、産業全般の調査に強みを持っております。調査会社のニューリーダーとして今後も挑戦しつづけます。弊社は事業を通じて、以下の実現に努め、行動します。

- ・ 既成概念にとらわれず、顧客にとって最善の価値を提供します
- ・ 顧客にとって親しみのある身近な存在となります
- ・ 顧客の新たな挑戦に貢献します
- ・ 新たな価値創造により、社会に貢献します

### ●業界情報データベース “ISGR”

市場規模・市場成長性・取引構造・主要プレイヤーの業績・業界沿革等を体系的にまとめた業界情報データベースをインターネットによるダウンロードサービスで提供するものです。500業種・業界におよぶ圧倒的な産業カバレッジを網羅しており、1レポートわずか10,500円（税込）というリーズナブルな価格で提供しております。情報収集にスピーディさが求められる企画部門、調査部門、開発部門、営業部門の方々、国内および海外の500社を超える企業にご活用いただいております。

【URL】 <http://www.isgr.co.jp/>

### ●リサーチ & ソリューションサービス

当社は産業調査のエキスパート集団であり、民間企業、官公庁・団体などのお客様に経営・マーケティングに関するリサーチ & ソリューションサービス（受託調査、各種提案）を提供しております。顧客にとって最善の価値を提供することをモットーに、パートナーとして顧客の新たな挑戦に貢献します。

【URL】 <http://www.delta-id.com/>

### ●自主企画調査資料

培った調査ノウハウをもとに、自主企画調査資料も製作、販売しております。経営戦略に不可避の時代を睨んだ重要なファクターに視点を当て、特定の業界や商品の市場について多面的な角度から実態を把握できる資料となっております。

当社では、2007年12月に以下のレポートを発刊しております。本レポートの概要を紹介します。

「2008年 自動車用リチウムイオン電池の最新技術開発動向」

～EV/HEV/PHEV 搭載 LIB のブレークスルーを読む～

### ■ 概要

リチウムイオン二次電池（以下 LIB と記載）は、1991年、ソニーが開発した。その後目覚ましい発展を続ける LIB であるが、すでに少量ながら電気自動車（以下 EV と記載）やハイブリッド自動車（以下 HEV と記載）に搭載され始め、今後プラグインハイブリッド自動車（以下 PHEV と記載）搭載用としても本格的な普及が期待されている。

特に昨今、世界的に問題となっている地球温暖化ガスの CO<sub>2</sub> 削減やガソリン価格の暴騰など、地球環境の保全やエネルギー対策の点で、その解決策の一助としての LIB 搭載 EV/HEV/PHEV などが環境対応車として注目を浴び、本格的な普及が焦眉の急となっている。

現在、三菱自動車、富士重工、日産自動車等が LIB 搭載車を上市しているに過ぎないが、今後、国内外各社の EV/HEV/PHEV に LIB の搭載が着実に進んで行くものと予想される。現時点では、トヨタおよびホンダは 2009 年以降の HEV に LIB の搭載を予定しているが、当初、巷間流布されていた 2008 年頃における HEV の LIB 搭載は、元々難しい計画であったこともあり、2009 年～2011 年が本格的な LIB 搭載開始時期と見るのが妥当であろう。

また、昨年から小型リチウムイオン電池市場の中で起こっている発火事故等、安全性確保の点で、自動車メーカーの慎重度が更に増したことも否めない事実である。

しかし、自動車メーカー各社とも、LIB の研究開発については、手を緩めることなく進行しており、その背景には、現行の HEV に課せられている各種問題を解決する為には、「LIB が最も近いところにある」という共通認識があり、2010 年頃には、各社とも LIB 搭載車を発売すると発表している。短期的には、秒読み段階に入ったものと思われる。

こうした進捗状況の中、当社は研究開発技術調査を基に、EV/HEV/PHEV 搭載用の LIB および LIB 関連のブレーク予測を解析した報告書を発刊することとした。現在、LIB の高性能はほぼ検証され、次は、重要課題である安全性とコストの詰めにその軸足を移す段階へと入っている。基本的には、技術の課題であり、解決して行くものと予測される。

本報告書では、内外の電池関連の学会誌、機関誌、